

国際交流 Newsletter

2017年 11月号

発行 延岡市役所総務部国際交流推進室 (総務課内) (国際交流員: カナ・ブリス)

〒882-8686 延岡市東本小路2-1 T e l . (0982) 22-7006 M a i l : kokusai@city.nobeoka.miyazaki.jp

スポーツ ・ Sports ・ Sport



日独スポーツ少年団同時交流のドイツ人選手らが延岡に着いて、はじめてホストファミリーと会った日

Bevor es für mich letztes Jahr im August nach Japan ging, gab es eine Informationsveranstaltung in der japanischen Botschaft in Berlin, die mit einem kleinen Empfang abgeschlossen wurde, an dem auch Botschaftsmitarbeiter und ehemalige deutsche JETs anwesend waren. Aus Nobeoka hatte ich zu diesem Zeitpunkt bereits ein paar erste Informationen über meine Aufgaben als Koordinatorin für internationale Angelegenheiten bekommen, aber es war mir noch nicht ganz klar, warum die Arbeitsposition zum ersten Mal mit einer Deutschen besetzt wurde. Dieses Rätsel hat sich beim Empfang in der japanischen Botschaft zufällig geklärt, als eine Botschaftsmitarbeiterin im Gespräch erwähnte, dass Nobeoka „Hosttown“ für Deutschland werden will.

去年の8月に日本に来る前、ベルリンにある日本大使館で出発前研修がありました。その研修の終了後にはドイツ人の元JET参加者や大使館の職員が参加してくれたレセプションも行われました。その頃、私は延岡市と連絡をとりましたが、なぜはじめてドイツ人国際交流員が呼ばれたか詳しく聞いてない状態でした。偶然にも、レセプションの時にそのことについて色々教えてもらいました。実は、大使館の方と話した時、「延岡市は確かドイツのホストタウンを希望してますよね」と言われました。

Hosttown? Diesen Begriff habe ich nach meiner Ankunft in Nobeoka regelmäßig gehört. Im Zusammenhang mit den Olympischen und Paralympischen Spielen, die 2020 in Tokyo abgehalten werden, können sich Städte und Präfekturen in Japan als sogenannte „Hosttowns“ für bestimmte Länder registrieren lassen.

Da bereits im Rahmen der Fußball WM 2002 in Japan/Korea ein Trainingslager der deutschen Fußballnationalmannschaft in der Präfektur Miyazaki stattgefunden hatte, haben sich die Präfektur und drei Städte (Miyazaki, Nobeoka, Kobayashi) dafür beworben, „Hosttown“ für Deutschland zu werden. Neben dem Land muss jedoch auch noch eine Sportart ausgewählt werden. Im Falle Nobeokas ist das Judo, da es hier besonders viele erfolgreiche Judoka gibt. (Allein bei den Olympischen Spielen in Rio haben Judoka aus Nobeoka drei Medallien gewonnen!)

ホストタウン？延岡に到着してから何回も聞いた単語です。東京で2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックに関して、日本の県やまちは「ホストタウン」としての登録申請ができます。

2002年の日韓サッカーワールドカップの前に、ドイツサッカー代表チームの事前合宿が宮崎県内で行われたことを踏まえ、宮崎県と3つのまち（宮崎市、延岡市、小林市）がドイツを相手として、ホストタウンの申し込みをしました。相手国以外に、競技種目も選ぶ必要があります。延岡にゆかりのある強い選手がたくさんいますので、本市は柔道を選びました。（延岡にゆかりのある柔道選手はリオのオリンピックでメダルを3つも取りました！）



ドイツサッカー教室の時、二人のコーチがドイツから延岡へ来ました。

Die Stadt hat mit dem deutschen Judo-Bund Kontakt aufgenommen, um deutsche Judoka zu einem Trainingscamp nach Nobeoka einzuladen. Ein weiterer Schritt im Hosttown-Projekt war es, einen deutschen Mitarbeiter für das Rathaus zu finden. Und so bin ich in Nobeoka gelandet! Nach mehreren Treffen mit dem Deutschen Judo-Bund wurde sehr schnell klar, dass es mehr als nur ein Trainingscamp in Nobeoka geben soll. Zudem sollte das erste Training in Nobeoka bereits im November 2017 vor dem Judo Grand Slam in Tokyo stattfinden! Die konkrete Planung begann und vom 13. bis zum 25. November deutsche Judoka hier in Nobeoka trainieren, bevor sie in Tokyo um Medallien kämpfen werden. In diesem Sinne ein herzliches „Willkommen in Nobeoka“ an das Team des Deutschen Judo-Bunds.

延岡市はドイツの柔道家に合宿をしてもらうために、ドイツ柔道連盟と連絡をとることになりました。そして、ホストタウンとして登録されたことで、延岡市役所にドイツ人の国際交流員を呼んでくれました。それで私は延岡に来ました！

ドイツ柔道連盟と合宿について協議した結果、一回だけではなく、何回も延岡で合宿してもらうことが目標になりました。延岡市での最初の合宿は「グランドスラム東京大会」前に行くことに決まりました。合宿受け入れの具体的な準備が始まり、11月13日から25日までドイツの柔道選手が東京の大会出場に向けて、事前合宿のために延岡に来てくれます。ドイツ柔道連盟のチーム：ようこそ延岡へ！

Neben dem Austausch mit dem Deutschen Judo-Bund gehören zu den Bemühungen als Hosttown aber noch viele andere Veranstaltungen und Projekte. So waren bereits im März zwei deutsche Fußballtrainer zu Besuch in allen drei Hosttowns der Präfektur, um dort mit Schülern Fußball zu trainieren. Ende Juli kam dann auch noch eine Gruppe an jungen Sportlern im Rahmen des deutsch-japanischen Sportjugend Simultanaustausches nach Nobeoka und wurde in verschiedenen Gastfamilien untergebracht. Besonders für die Gastfamilien war dies ein unvergessliches Erlebnis. Neben dem Sportaustausch sollen aber auch Deutschkurse und andere Deutschland-Veranstaltungen zur Verbindung zwischen Nobeoka und Deutschland beitragen.

Ziel ist es, dass auch nach den Olympischen Spielen in Tokyo weiterhin ein Austausch mit Deutschland stattfindet. Am besten klappt das natürlich, wenn alle Einwohner der Stadt mithelfen!

ドイツ柔道連盟との交流以外にも、ホストタウン活動として他のプロジェクトやイベントがたくさんあります。例を挙げると、今年の3月、ドイツ人のサッカー・コーチ2人が県内の子供たちとサッカーをするために宮崎県内の3つのホストタウンに来てくれました。他には7月末に日独スポーツ少年団同時交流のため、ドイツのスポーツ交流団が延岡市を訪問して、ホームステイを行いました。特にホスト・ファミリーの方にとっては、忘れられない思い出になったことでしょう。スポーツ交流以外にも、延岡市の国際交流推進室ではドイツ語講座やドイツに関係がある国際交流イベントなども開催して、ドイツと延岡の繋がりを深めていけるように様々な取組を行っていきます。

ホストタウンとしての目的は相手国との交流が東京オリンピック以降も続くことです。地元の皆さんと一緒に様々な交流をしていただければ、出来ることです。



ドイツ柔道連盟の会長と副会長が延岡に初めて訪問した時



簡単なドイツ語を紹介します！

Sport	シュポルト	スポーツ
Judo	ユード	柔道
Trainingslager	トレーニングス・ラーガー	合宿
Gast	ガスト	客
Wettkampf	ヴェット・カムプフ	試合

世界のキレイなまちの紹介

モスタル
Mostar (ボスニア・ヘルツェゴビナ)

ボスニア・ヘルツェゴビナ、ヘルツェゴビナ・ネトヴァ県

人口：約11万人



今月のニュースレターでボスニア・ヘルツェゴビナの5番目に大きなまちについて紹介します。そのまちはモスタルと言います。

モスタルの地名は「橋の番人」という意味を持ち、市内を流れるネトヴァ川に架かる橋「スタリ・モスト」の名前は「古い橋」という意味です。スタリ・モストの建設は1557年から1566年までの9年間にわたり、当時の世界唯一のシングル・スパン・アーチとして考えられています。高さ12mのアーチは地元の石で組まれていました。しかし、1993年にボスニア・ヘルツェゴビナ紛争のせいで破壊されましたが、2004年までには戦前のように忠実に再建されました。そして2005年、「モスタル旧市街の古い橋の地区」としてボスニア・ヘルツェゴビナ初のユネスコ世界遺産に登録されました。登録の理由は建築上のユニークさだけではありません。実は、スタリ・モストは昔からボスニア・ヘルツェゴビナの東と西を繋いでいる橋というだけでなく、キリスト圏とイスラム圏、そしてカトリックのクロアチア人とオーソドックスなセルビア人を繋いでいるシンボルとして知られています。現在、スタリ・モストはモスタル市の最も有名な観光スポット、さらにまちの象徴です。

モスタルの市民の中で最も人気のあるスポーツはサッカーですが、サッカーよりもある特別なスポーツのまちとして知られています。それは橋からの飛び込みです。モスタルの若い人々にとって、高さ24mのスタリ・モストの上からネレトヴァ川に飛び込むのが特別な伝統になりました。モスタルで飛び込みをする慣例は1664年からあったという記録により確認されていますが、実際は橋の建造当初にも飛び込みがあったと言われています。ネレトヴァ川はとても冷たくて、飛び込みするのも非常に危険なので、誰でも出来ることではありません。1968年からモスタル市では公式な飛び込み大会が毎年、夏に開催されますので、飛び込みが最も上手な人々を見ることもできます。飛び込み競技をする人々は「イカリ」と呼ばれています。

飛び込み大会以外にも飛び込みを見ることができます。夏に多くの観光客が橋からの飛び込みを見に行きますので、最近では観光客からお金を集めて、払ってもらったら川に飛び込む人も増えてきました。収入源として飛び込みをする人の中には（右下の写真のように）上手に飛び込みが出来ない人もいますし、その人たちのリスクが高いです。それに、上手く飛ぶことができて、スタリ・モストからジャンプするのは健康面でも（特に脊柱と心臓に）よくないです。ただ、毎日5～10回ほど橋の上から飛び込んでいる人々はなかなかいい仕事が見つけれませんので、飛び込み続けます。

スタリ・モストの近くにある店



モスタル市の旧市街



モスタル市の旧市街

スタリ・モストの上からの飛び込み

COMICコーナー



漫画担当：
エリン・クシング

出身：アメリカ
年齢：23歳
3年目のALT



国際料理コーナー

9月の「楽しい料理教室」でイタリアやギリシャ風の夏の料理を作りました。

一つのレシピはフォカッチャと言う簡単に作れるパンでした。是非、作ってみてください！

Focaccia

フォカッチャ

出来上がりの分量：5～6人前

調理時間：3時間

作り方

1:

鍋で牛乳を温める。

2:

ボウルに小麦粉350gを入れる。真ん中にくぼみを作って、イーストを入れる。砂糖と温めた牛乳大さじ5をイーストと混ぜる。小麦粉を少しだけ追加して一緒に混ぜる。暖かい場所で20分間寝かせる。②

3:

残りの牛乳と水を混ぜて、塩とオリーブ・オイル（75ml）と一緒に②のボウルに入れて、生地になるまで手で混ぜる。1時間暖かい場所で寝かせる。③

4:

生地をもう一度混ぜる。生地をピタパンの形にして、クッキング・ペーパーに置く。（厚さは1～2cmならいい）海塩とローズマリーをパンに振る。オリーブ・オイル（50ml）を上につける。30分寝かせる。オーブンを200度に加熱しておく。

5:

パンを200度で15分オーブンの中で焼く。フォカッチャはできあがり。

⇒ フォカッチャは冷凍することができます。食べる前にオーブンを180度にして、

フォカッチャを少しだけ温めたら美味しいです。



材料

小麦粉

350g + 少し

イースト

20g

砂糖

少し（小さじ約0,5）

牛乳

100ml

水

100ml

塩

小さじ1

オリーブ・オイル

125ml（75ml + 50ml）

海塩

小さじ1

ローズマリー

1本

ALTコーナー

今回のALTコーナーではオーストラリア出身のブレアさんが好きなスポーツ、そして南アフリカの歴史について紹介してくれます。

It's often said that sports aren't that important, that all they do is offer a distraction from things that actually matter in life. I don't necessarily believe that, not just because I am a sports fan myself, but because there are examples of sport playing important roles in history. Perhaps one of the most famous and iconic examples is how South African President Nelson Mandela used the 1995 Rugby World Cup to unite his racially divided nation.

From 1948 to 1991, South African society was racially segregated between black people and white people: a policy known as Apartheid. Everything from residential districts to public facilities to marriage was legally divided by race. Rugby had been a popular sport in South Africa since the 1930s but it was largely seen as a white person's sport. The team only consisted of white players and it was perceived by everyone else to be the sport that represented colonial racism. As such, black South Africans hated the national team: The Springboks.

スポーツは人生で大切なことを邪魔しているの、あまり重要なことではないと言う人がたくさんいます。私はそれが正しいと思っていません。それはスポーツが好きな人間として言っている事だけではなく、歴史のことを考えると、スポーツの大切な役割が何回も見られるからです。南アフリカの大統領ネルソン・マンデラ氏が1995年のラグビーワールドカップ大会で人種的に分断された国を統一できたことは一番有名な、象徴的な例かもしれません。

1948年から1991年まで、南アフリカは人種的に黒人と白人に分けられました。それは「アパルトヘイド」（人種的差別）と呼ばれていました。近所、公共施設、結婚など、すべてが法律的、人種的に分断されました。ラグビーは1930年代から南アフリカでの人気スポーツでしたが、特に白人のスポーツとして考えられました。ラグビーの選手は白人だけで、植民地の人種差別の象徴として見られました。そうしたことで、南アフリカの黒人たちが「スプリングボックス」という愛称で呼んでいたラグビー南アフリカ共和国代表チームのことが嫌いでした。



ネルソン・マンデラ大統領の像



ラグビーの試合

After Apartheid was removed and Nelson Mandela became president in 1994, many countries (including Australia) lifted the ban on South Africa competing internationally. There were movements to discontinue the Springboks logo and replace it with a more neutral symbol. Nelson Mandela, a rugby fan himself, intervened personally to prevent it. Nelson Mandela understood the power of symbols and the uniting force sports have, so he saw an opportunity. He decided to publically and passionately support the Springboks as a means to show his nation, both black and white, that he was interested in reconciliation.

アパルトヘイドが終わって、1994年にネルソン・マンデラ氏が大統領になってから、その時まで（アパルトヘイドの関係で）国際舞台から遠ざかっていた代表チームもラグビーワールドカップに参加できるようになりました。当時、スプリングボックスのロゴデザインから無色のロゴに変更する運動もありました。ラグビーのファンであったネルソン・マンデラ大統領はその運動を自分で止めました。ネルソン・マンデラ大統領はシンボルの影響やスポーツが持つ人を統一できる力を知り、その好機を見いだしました。国民が統一した国を望んでいるのを南アフリカの黒人と白人に伝えるために、大統領として一生懸命スプリングボックスのサポーターになりました。

In the lead-up to the 1995 Rugby World Cup, which was hosted in South Africa, there was a surge of popularity and support for the Springboks from both white and black supporters. Before the match, Nelson Mandela, dressed in the Springboks hat and jersey, came out to the field to personally shake the hands of every member of the team. The crowd of 60,000 (mostly white) people was ecstatic, even going so far as to stand up and chant “Nelson! Nelson!” For many black South Africans, this was a scene they never thought would happen, especially given how racially divided the nation was fewer than 10 years prior. The match itself was incredibly tense. South Africa played a defensive game that shut down New Zealand’s famously aggressive style of play but, because of this, very few points were scored. By the end of the match, the score was only 9-9, forcing it into overtime. After an agonizing 7 minutes, South Africa managed to score one last drop-goal, taking the score to 12-9 and winning the World Cup for South Africa.

While celebrating on the field to a rapturous crowd, captain Francois Pienaar was interviewed and gave his thoughts on the match. When asked what he thought about the overwhelming support from the crowd, he replied “Today we didn’t have the support of 60,000 South Africans. We had the support of 43 million South Africans.” In what is probably one of the most iconic moments in all of sporting history, Nelson Mandela—dressed in a Springboks uniform—handed the Rugby World Cup trophy to the Springboks captain Francois Pienaar. That day, a new South Africa found its national identity through a game of rugby.



スプリングボックスのロゴデザイン

1995年に南アフリカで開催されたラグビーワールドカップの前には、スプリングボックスの人気や黒人と白人のサポーター数が増えてきました。そして、試合が始まる前に、マンデラ大統領はスプリングボックスの帽子とジャージを着て、フィールドで選手一人一人と握手しました。約6万人の観客（ほとんど白人）が感動して、立ちあがって「ネルソン！ネルソン！」と叫んでました。人種差別で分断してからまだ10年もたってなく、南アフリカの黒人はこうしたことが起こるとは夢にも思いませんでした。試合の時はすごく緊張感がありました。南アフリカは守備重視のプレイをしましたので、ニュージーランドのチームがいつものように強気でアタックできなくて、試合はロースコアでした。試合が終わるまで、9-9からスコアが動かなくて、延長になりました。苦しい時間帯が続いた7分後、南アフリカのチームはドロップ・ゴールが決まり、12-9となり南アフリカがラグビーワールドカップで優勝しました。

選手が観客とフィールドで勝利を祝っている間、南アフリカのキャプテンのフランソワ・ピナール氏はインタビューを受け、試合のことを話しました。その時、観客からの素晴らしいサポートについて聞かれ、「今日サポートしてくれたのは6万人ではなかったです。サポートしてくれたのは4300万人の南アフリカ国民でした」と答えました。そして、その日にスポーツの歴史の中で最も印象に残ることが行われました：ネルソン・マンデラ大統領はスプリングボックスのジャージを着て、キャプテンのフランソワ・ピナール氏にワールドカップのトロフィーを渡しました。この日、南アフリカはラグビー試合のおかげで、ナショナル・アイデンティティを見つけることができました。

ブレア・ニルソン



ホームタウン： オーストラリア、ブリスベン市

年齢： 31歳

4年目のALT

好きなスポーツ： ラグビー

ラグビーのファンとして、2019年ラグビーワールドカップ日本大会を楽しみにしています！

10月の「はじめてのドイツ語」の記念写真



ドイツ語講座 & ランチと国際交流フリートーク

日時： 12月13日（水） 11時～13時

場所： 場所： 社会教育センター 会議室3

⇒ ① ドイツ語講座： 簡単なドイツ語の勉強

時間： 11時～12時

⇒ ② ランチと国際交流フリートーク： ランチを食べながら、会話をしましょう！

時間： 12時～13時

（② お弁当を持参してください。）

※申込み不要です。

国際交流推進室のFacebook

ページを開設しました。

Follow us on Facebook!

Facebookもチェック 

「Nobeoka International - 延岡市国際交流推進室」

ドイツ語で話してみましよう！

日時： 12月20日（水） 18時～19時

場所： 社会教育センター 研修室 6

内容： ドイツ人の国際交流員とドイツ語で様々なテーマについて話してみましよう。

ドイツ語を楽しみながら、レベルアップできます！

※12月のテーマは「クリスマス」です。

参加者： ドイツ語で話してみたい方、参加してみてください！ 聞くだけでも大丈夫です！

※申込み不要です。

連絡先 （申し込み・質問・コメントなど）

Tel. (0982) 22-7006 （総務課内）

Mail: kokusai@city.nobeoka.miyazaki.jp

国際交流ニュースレター作者： カリナ・ブリス

出身： ドイツ、アウグスブルク市

2016年8月から延岡市の国際交流員





冬の
バオカノマドフェス

+

ドイツ
クリスマス ☆ マーケット
Deutscher Weihnachtsmarkt

延岡市役所国際交流推進室はノバオカノマドハウスとのコラボレーション企画として12月17日（日）15時からサンロード栄町で「冬のノバオカノマドフェス + ドイツ・クリスマス・マーケット」を開催します。ドイツのクリスマス・マーケットのように屋台などでクリスマスの飲み物や料理を販売します。音楽のプログラムと体験ブースも準備します。是非、ご参加ください！

※ボランティアとしてお手伝いいただける方は国際交流推進室までご連絡ください。



延岡市国際交流推進室のFacebook ページを開くことになりました！



Nobeoka International
— 延岡市国際交流推進室
@kokusai.nobeoka



- ◆ 国際交流Newsletter
- ◆ イベント情報
- ◆ 国際交流の写真
- ◆ 外国の紹介
- ◆ 楽しい料理教室のレシピ
など

Find us on  Nobeoka City's International Exchange Promotion Office created a new Facebook page. The Facebook page will be updated in Japanese, English and German. Please follow our new page "Nobeoka International - 延岡市国際交流推進室". The page will keep you updated about both international and local events in Nobeoka. We'll also share the International Exchange Newsletter, pictures of events, and more!